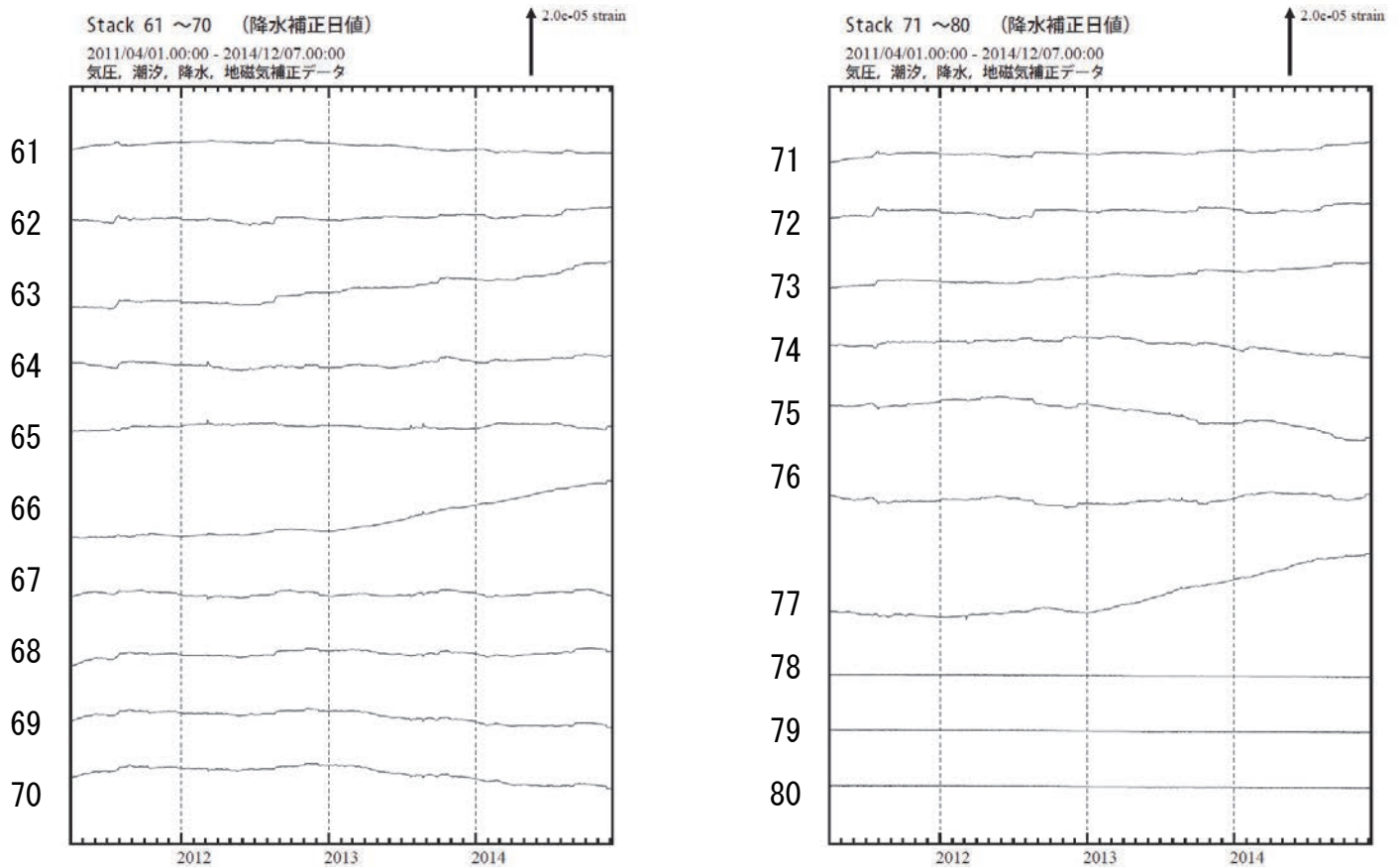


スタッキング*による長期的ゆっくりすべりの検出について

○各グリッドでの時系列変化

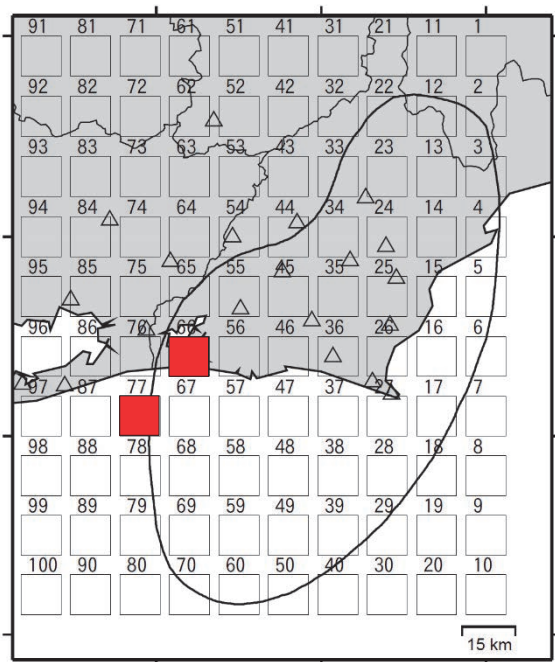


日値スタッキング波形。番号は監視グリッド（左下図参照）を示す。

データ : 補正日値（体積ひずみ計とアナログ式多成分ひずみ計）

ノイズレベル : 2011 年 6 月～2012 年 12 月の、60 日階差（単純な階差）の標準偏差

理論値計算 : 0.15° ごとの各グリッドを中心とする、20×20km の断層



グリッド配置およびすべり量 (Mw)

グリッド No. 66 と No. 77 に明瞭な変化が見られている。総すべり量は Mw6.4 相当となる。



* スタッキング手法は、複数のひずみ計のデータを重ね合わせることによって、微小な地殻変動のシグナルを強調させて、検知能力を向上させる解析方法である。

参考文献

宮岡一樹，横田 崇（2012）：地殻変動検出のためのスタッキング手法の開発ー東海地域のひずみ計データによるプレート境界すべり早期検知への適用ー，2012，地震 2，65，205-218.

図 6 スタッキングによる長期的ゆっくりすべりの検出

気象庁・気象研究所作成